



Special Olympics

2016年 ルール変更対照表

バレーボール

変更前の内容	変更後の内容
	ルール変更対照表には、内容の変更があった箇所のみ記載しています。
セクション C –競技ルール b. 競技会における FIVB ルールからの変更点 d) 両チームのコーチは、試合終了後、スコアシートに結果確認のサインをしなければならない。 c. 基本グラウンドルール 1) 選手 a) (前略) ただし、4 名以下で試合を続けてはならない。 b) ユニファイドスポーツ®チームは、アスリート 3 名とパートナー 3 名で構成される。 ただし、酌量すべき事情がある場合、競技会責任者はユニファイドスポーツ®の精神に反しないと判断できれば、アスリートの数をパートナーの数より多くすることを認めてもよい。 2) サービス e) サーブはサービスゾーンより行う。 ボールに接触した時に、ラインを踏んだり、越えたりした場合は反則となる。 3) プレイ c) 脚以外の身体の一部がセンターラインを完全に越えたりした場合でも、そのことにより試合に支障が生じないのであれば、反則にはならない。しかしながら、ボールプレイ中にネットの上部の白帯に触れたり、センターライ	4. チーム競技ルール <削除> 4.4 基本グラウンドルール 4.4.1 選手 4.4.1.1 (前略) ただし、チームが 4 名以下に減った場合にはゲームは失格となる。 4.4.1.2 ユニファイドスポーツ®チームは、アスリート 3 名とパートナー 3 名で構成される。 <削除> 4.4.2 サービス 4.4.2.5 サーブはサービスゾーンより行う。 ボールに接触する前にエンドラインを踏んだり、越えたり、またはサイドラインで規定されたサービスゾーンを出た場合は反則となる。 4.4.3 プレイ 4.4.3.3 ボールプレイ中は、どの部分であってもネットに触れることは反則となる。脚以外の身体の一部がセンターラインを完全に越えたりした場合でも、そのことにより試合に支障が生じないのであれば、反則にはならない。センターライ

<p>ンを片足あるいは両足で完全に超えたりした場合は反則とみなされる。</p> <p>d) ボールが天井に当たった場合は、ネットを越えていなければ打ち上げたチームのボールとし、プレイを続行できる。</p>	<p>ンを片足あるいは両足で完全に越えた場合は反則とみなされる。</p> <p>4.4.3.4 ボールが天井に当たった場合は、ネットを越えていなければ打ち上げたチームのボールとし、プレイを続行できる。 また天井に当たったのが、チームの3度目の接触後の場合も同様である。</p>
<p>2. ユニファイドスポーツ® チーム競技</p> <p>b. 競技に参加するアスリートとパートナーの数はいかなる場合もそれぞれ 3 名の枠を超えてはならない。これに違反した場合は失格となる。</p>	<p>5. ユニファイドスポーツ® チーム競技ルール</p> <p>5.1 登録選手およびラインアップ</p> <p>5.1.2 競技に参加するアスリートとパートナーの数はいかなる場合もそれぞれ 3 名の枠を超えてはならない。 ゲーム開始後は、以下に挙げるラインアップのみ認められる。 3 名のアスリートと 3 名のパートナー 3 名のアスリートと 2 名のパートナー(負傷または病気の場合) これに違反した場合は失格となる。</p>
<p>セクション D-バレーボール技能評価テスト (VSAT: Volleyball Skills Assessment Tests)</p> <p>2. VSAT- アンダーハンドパス テスト アスリートは両手で出されたオーバーハンドトスを 10 回、ネットの反対側の左右のどちらかのサイドラインから 4.5m (14ft9in)にあるアタックラインにいるトサーからもらう。 アスリートはライトバックのポジション、右サイドラインから 3m [9ft10in]、エンドラインから 1m [3ft3 3/1in]の地点で 5 回の試技を行う。同様に、レフトバックのポジション、左サイドラインから 3m [9ft10in]、エンドラインから 1m [3ft3 3/1in]の地点でも 5 回の試技を行う。トサーからのボールが適切でない場合はトスをやり直す。 アスリートはネットから 2m [6ft6 3/4in]、サイドラインから 2.25m 離れたアスリートと同じサイドで頭上に両手を上げて立っているターゲットに向けて、トスされたボールをパスする。ターゲットエリアは 1~5 点の領域に分けられている。パス</p>	<p>8. バレーボール技能評価テスト(VAST)</p> <p>8.2 VSAT- アンダーハンドパス</p> <p>8.2.4 方法</p> <p>8.2.4.1 アスリートは右サイドラインから 3m (9ft,10in)、エンドラインから 1m (3ft,31/3in)のライトバックのポジションに立つ。同じ側のコートの前中央のネットから 2m (6ft,6 3/4in)の位置にいるトサー(コーチもしくは審判)が、アスリートに両手でオーバーハンドトスをあげる。アスリートはそのボールをレシーブし、同じコート内のネットから 2m、トサーと反対側のサイドラインから 4m (13ft, 1 1/2 in)離れて頭上に両手を上げて立っているターゲットに向けてパスをする。ターゲットエリアには、エリアごとの得点がフロントコートに表示されている。この種目は、左側サイドラインから 3m、エンドラインから 1mのレフトバックの位置においても、繰返し行う。</p>

<p>ボールの軌道の一番高い地点はネットより高くなければならない。</p>	
<p>得点 パスボールがネットの高さよりも低い時、もしくはボールがセンターラインを越えて落ちたときはイリーガルコンタクトとなり、得点は 0 点となる。ボールがライン上に落下した場合は高い方の点数を採用する。アスリートの最終スコアは、10 回の試技の得点を合計して決定される。</p>	<p>8.2.5 得点 8.2.5.1 最高得点を獲得するためには、アスリートは少なくともパスの軌道の一番高い地点がネットより高い位置にななければならない。ボールがライン上に落下した場合、得点は高い方のエリアの点数を採用する。パスがネットより低い時は、落下した位置にかかわらず得点は 1 点とする。最終スコアはライト・レフトバックそれぞれの位置で 5 回ずつ行った試技の得点を合計した点数とする。各パスの高さを評価するため、審判は椅子の上に立つことを推奨する。</p>